

年間第21主日A

マタイ16・13-20

今日は年間第21主日です。先週の福音箇所は「異邦人であるカナンの女性」の信仰についてでした。今日は、いよいよ「ペトロが信仰を告白する」という話です。今日の福音で、今までずっとイエスに従ってきた弟子たちを代表して、シモン・ペトロがイエスに「あなたはメシア、生ける神の子です」と信仰をはっきりと表明しています。イエス様はここで弟子たちに重要な質問を二つしました。最初の質問はこうです。「イエスは弟子たちに、『人々は、人の子のことを何者だと言っているか』とお尋ねになった」（マタイ16・13）。つまり、ほかの人々がイエスをどのように理解しているか、を聞いておられます。言い換えれば、人々がイエスについてどのような「認識」「知識」をもっているかを聞かれたのです。もう一つの質問は次のようです。「イエスが言われた。『それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか』（マタイ16・15）。この箇所は、ほかの人々から得た知識ではなく、「あなたは私をどのように信じているのか」という「個人的」な関係、「信仰」を聞いておられるのです。

この「あなたたちは私を誰と思うのか」というイエスの問いかけは、すべてのキリスト者にとって非常に重要です。

そのイエスの問いかけに答えるために、私たちは、自分にとってのイエスは誰なのか？ 私にとって神の子とは誰なのか？ と自問しなければなりません。皆さんにお尋ねします。あなたにとってイエス様とは、誰ですか、あなた自身にとってイエスはどのようなお方ですか。これは私たち一人一人に対する根本的な問いかけです。

キリスト教では、教義や伝統も大切ですが、より重要なのは、神との個人的な関係であり、イエスを神の子と信じる信仰です。

そういう意味で、今日の福音は、私たちをキリストとの**個人的関係**へと導いてくれます。イエスに対する先の二つの重要な質問にもう一度目を向けましょう。一つ目は、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」ということでした。

この質問に対して、弟子たちはこう答えました。「ある人は洗礼者ヨハネ、ある人はエリヤ、ある人はエレミヤ、あるいは預言者の一人だ」といっています。つまり、人々はキリストを預言者であると理解していたのです。

イエスは弟子たちに、人々がキリストをどのように認識したかを尋ねることによって、他の人々が与えてくれる知識が私たちの信仰のはじまりとなりうることを示唆されたのです。

私たちが信仰を得た時のことを考えてみましょう。私たちがキリストについて、また、信仰について、知ったのは、多くの場合、私たちの両親、神父たち、友人など、他の人たちからです。しかし、キリストについて知っている、信仰について「知識」を持っているというだけでは、十分ではありません。

おそらくこれが、イエスが弟子たちに二番目の質問をした理由でしょう。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」。この質問に対して、ペトロは、ほかの人が何と言おうと、わたしは「あなたはメシア、生ける神の子」と信じますと力強く答えることができました。そしてイエスは、ペテロの答えに同意し、満足されました。

キリスト者として歳月を重ねるにつれて、イエスについての知識が成長することが期待されています。しかし、私たちは、ともするとイエスについての知識や人から聞いたことで満足してしまう傾向があります。つまり、親や友人から聞いた知識で満足してしまっているのです。しかし、第二の質問が私たちに問いかけるのは、私たち一人一人が、イエスと個人的関係を持ち、イエスとの交わりを豊かにする必要があるということです。それでは、どうすれば、キリストと個人的な関係を深め、交わりを豊かにすることができるでしょうか。

第一はイエスと過ごす時間を作るために祈ることです。イエスと共に過ごすために時間をもうけることはとても大切です。祈りは、イエス・キリストとの個人的な関係を深めるための鍵です。第二は聖書を毎日読むことです。聖書からキリストの言葉を聞くことも、このイエス・キリストとの交わりを深める鍵です。他の人からイエスについての知識を得ることは、大切なことです。しかし、たゆまぬ祈りや個人的に聖書を読むことでイエスに語りかけ、また聖書からイエスの言葉を示されるという関係が大切なのです。

今日、私たちの信仰とイエスとの個人的な関係がますます強く深くなるように祈りましょう。そして、日々の生活の中で出会うすべての人々にいただいた信仰を証しできるように祈りましょう。

Lazun naw san Vincent (pime)